

「道南連携地域政策展開方針(H20～H24)」 に係る地域重点プロジェクトの推進状況の概要

地域のめざす姿

北海道新幹線がむすぶ、はこぶ、ひらく、
魅力あふれる「道南」の未来。

「主な施策の展開方向」

- 北海道新幹線開業に向けた地域づくり
- 特色ある地域産業の振興
- 地域資源等を活用した新産業の創出
- 地域に根ざした観光・文化の振興
- 快適で安心して暮らせる地域社会の形成
- 自然と共生する地域づくり
- 国内外との交流促進と交通・情報ネットワークの形成

地域重点プロジェクトの推進状況

■ 道南の食・文化・歴史を生かした交流促進

【推進エリア：道南連携地域】

【主な取組実績】							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「新幹線時代に向けた『道南の魅力』新発見・再発見フェア」など地域資源の発掘・価値向上に向けた気運醸成イベントの開催（H20～23） ○ 「北の縄文パネル展」や「縄文文化体験ツアー」、「縄文講座」の実施（H22～24） ○ 観光庁の広域観光圏である「はこだて観光圏」で圏域内の周遊促進に向けたPR活動などの事業を展開及び、「みなみ北海道ぐるっとスタンプラリー」の実施（H20～H24） ○ 「みなみ北海道観光推進協議会」による広域観光の推進に向けた取組（H21～H22）や、新たな広域観光ルートの造成や観光地見学・相談会の開催、青森県と連携した観光PRの実施（H23） ○ 東北での観光プレゼンテーションや首都圏での観光PRの実施（H21～H24） ○ さっぽろ夏まつり「大通ビアガーデン」で観光及び地域食材をPR（H22～H24） 							
【主な成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 道南全域を所管する「みなみ北海道観光推進協議会」の設立や道南圏でのスタンプラリーの実施等 ○ 青森や後志地域を視野に入れた広域的な取組を推進する基礎が確立 ○ 首都圏旅行代理店において青函商品が販売されたほか、新たな地域資源の効果的なPRが実現 ○ フットパスルートの拡充やおくしりブイヤベース、ひやまカレーなど新メニューの開発 							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<ul style="list-style-type: none"> ① 北海道新幹線開業を見据え、地域の意識醸成と自発的取組を促すための効果的な普及啓発活動を積極的に展開するとともに、開業効果を波及させるための「道南地域実行計画」を策定し推進 ② 青森県や後志総合振興局と連携しながら、広域観光ルートの確立に向けた取組を推進 ③ 民間企業との連携協定を活用し、引き続き道南のPRを実施 ④ 江差追分の演奏や観光パンフレットの配布など「函館観光プロモーション」を実施 ⑤ 道南地域における広域観光ルートの検討及び観光ルートに適した2次交通のあり方を検討 							
<p>①⑤⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「新幹線開業を契機とした戦略的地域づくり推進プロジェクト」で推進</p>							
<p>②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「道南の食・文化・歴史を生かした交流促進プロジェクト」で推進</p>							
【地域で考える目標の状況】							
項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
観光入込客数（延べ人数）(万人)	1,178	1,085	1,036	1,060	1,022	1,083	1,235
観光客平均宿泊数（泊）	1.34	1.45	1.44	1.37	1.16	1.18	1.43

■ 道南の多様な農林水産物を生かしたブランド力の強化 【推進エリア：道南連携地域】

【主な取組実績】							
<p>○道南での有機野菜の推進に向けた取組を行うため、環境保全型農業に取り組む農業者による「道南有機野菜ネットワーク」を設立（平成23年7月）</p> <p>○「道南スギ」の産地化、需要拡大に向けて、ひやまの林業・木材産業再生推進検討会の開催、「ひやまの地域材需要拡大行動計画」の策定（H21～H23）</p> <p>○地域材利用促進に向けたシンポジウム等の開催（H20～）</p> <p>○農林水産業、食品加工業、試験研究機関が連携した加工品の開発を促進するため、「食クラスターフォーラムin檜山」等を開催（H22～H23）</p> <p>○市町村や民間企業と連携し、道南地域の食材を発掘や磨き上げ・販路拡大を目的とした「道南食と観光ブランドフェア」を開催（H21～H24）</p> <p>○地元スーパー・デパートと連携した物産フェア等の開催（H20～H24）</p>							
【主な成果】							
<p>○ガゴメコンブによる新商品の開発、鹿部産たらこからの中華風たらこの開発、タマフクラ大豆から和菓子などの新商品開発、王様しいたけのブランド化</p> <p>○戦略作物導入に向けた様々な品種の栽培実証を行い、取組意識が高まった</p> <p>○道南食と観光ブランドフェアにおいて多くの商談を進展（H23商談に進展したもの：52社 99件）</p> <p>○道南スギなど地域の森林資源の利用を進める木材加工流通施設の整備等へ支援（H21～22、4件）</p>							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<p>①道南地区北海道米食率向上戦略会議において、米消費拡大等に向けたPR活動を実施</p> <p>②アスパラガス、ブロッコリー等の栽培技術指導や立茎アスパラガスハウスの施設整備支援の実施</p> <p>③「道南スギ」の産地化、需要拡大に向け、林業経営の低コスト化対策や地域材の需要拡大等を推進</p> <p>④直売組織の支援及び農産物加工品カレンダー作成や研修会の開催や、振興局内にアンテナショップを設置し、モニタリング調査などを実施</p> <p>⑤地域の中小企業の販路拡大・ブランド化を推進するためブランドフェアの開催</p>							
<p>①②③④⑤⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「道南の多様な農林水産物を生かしたブランド力強化プロジェクト」で推進</p>							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
クリーン農業に取り組む生産集団数（Yes!clean）（団体）	22	25	25	26	32	32	27
ナマコ種苗生産数（万尾）	-	76.4	72.5	72.0	75.8	96.3	62.4
製材の道内出荷量比率（%）	40 スギ17	36 スギ21	40 スギ25	44 スギ28	44 スギ28	40 スギ22	40 スギ4
管内スーパー等と連携した物産フェアの開催数（回/年）	4	4	10	17	28	26	4

■産学官連携による地域産業の活性化

【推進エリア：函館周辺地域】

【主な取組実績】							
<ul style="list-style-type: none"> ○「函館マリンバイオクラスター」の取組が、文部科学省の地域イノベーションクラスタープログラムに採択（H21～） ○函館工業技術センターによる技術相談の受付（H20～23：1,837件） ○ガゴメコンブアンテナショップの開設（H21）と連携 							
【主な成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ○新産業創出や商品開発・研究開発の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・参画企業の開発した商品 200品目以上 ・累計売上 50億円以上（ガゴメクラスター） ・特許出願数 55件 ・海藻の試作品 100品以上 ・商品化 70件以上 							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<ul style="list-style-type: none"> ①北海道フードコンプレックス国際戦略総合特区における各種優遇措置を効果的に活用し、産学官が連携しながら、新製品や新技術の開発を推進 ②引き続き、地域の豊かな資源や人材を生かし、新産業の創出や産業集積を推進 							
①② ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「産学官連携や特区制度等の活用による地域産業活性化プロジェクト」で推進							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
管内の主な大学等の 共同研究数（回）	34	38	44	29	39	38	38

■日本海沿岸の豊かな森・川・海の保全・活用【推進エリア：檜山地域（八雲町含む）】

【主な取組実績】							
<ul style="list-style-type: none"> ○檜山地域日本海グリーンベルト構想に関する会議の開催（H20～H24） ○檜山管内7町のうち5町で毎年場所を変え、檜山の森づくり植樹祭を開催（H20～H24） ○「ひやまの森林と木材活用協議会」と連携し森林体験学習会を開催（H21～H24） ○適正な森林計画等の周知を図る説明会の開催（H20～H24） ○イカゴロによる栄養塩類の供給をはじめ、ウニの密度管理や母藻の設置などを実施（H21～H24） 							
【主な成果】							
<ul style="list-style-type: none"> ○森林づくりの推進に向け、植樹祭や学習会の継続実施による住民意識の高揚 ○高性能林業機械の導入など各町で森林整備箇所の団地化へ向けた取組が進展 ○ペレットストーブの展示等により、木質バイオ導入に向けた環境づくりが進展 							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き、檜山地域日本海グリーンベルト構想の情報発信や情報交換に係る会議を開催 ②地域の特色を生かしながら地域住民との協働による森づくりを支援 ③適正な森林資源管理と低コスト化林業の推進に向け、地域での木材需要を喚起するための説明会や森林作業道整備に関する検討会を開催 ④檜山地域における木質バイオマスの利活用に向けた取組を推進 							
①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「日本海沿岸の豊かな森・川・海の保全・活用プロジェクト」で推進							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
木育活動に主体的に 取り組む民間団体数 (団体)	-	1	1	1	1	1	2
地域の環境教育「自然 教育」を実施する管内 小学校数（校）	17	22	29	32	32	28	34

